

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

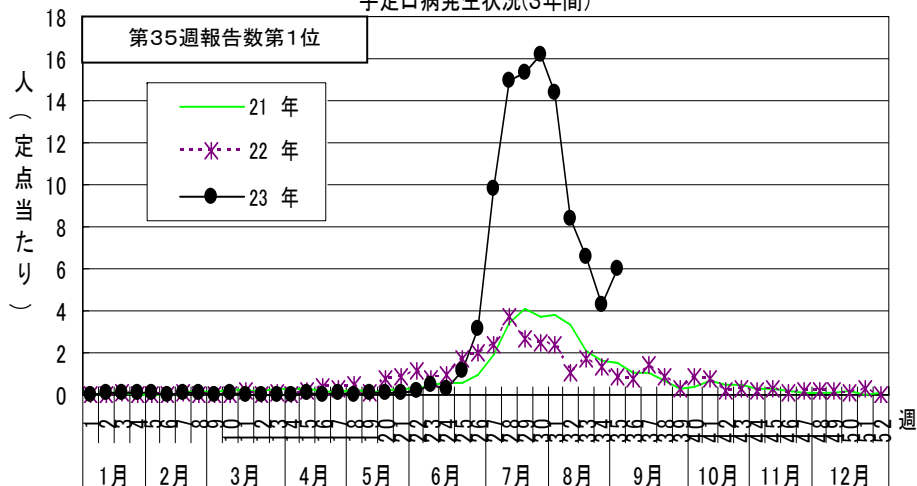
平成23年8月29日（月）～9月4日（日）〔平成23年第35週〕の感染症発生状況

第35週で定点報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。

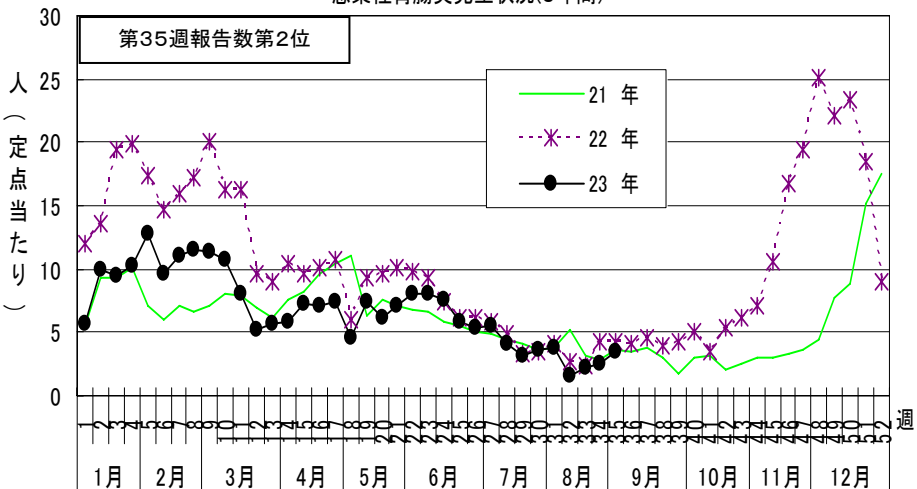
手足口病は定点当たり6.00人と前週（4.28）より患者報告数は増加しました。前週まで減少傾向が続いていましたが、一転して患者報告数が増加しましたので、今後の発生動向に注意が必要です。

ヘルパンギーナも定点当たり2.48人と前週（2.44）より患者報告数はわずかに増加しました。前週に引き続き、手足口病及びヘルパンギーナについては、過去10年間の同時期の報告数と比較すると、今年が最も多い報告数となっているため、引き続き手洗いなどの予防策の徹底が大切です。

手足口病発生状況(3年間)



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



手足口病の患者報告数が再び増加しました！！

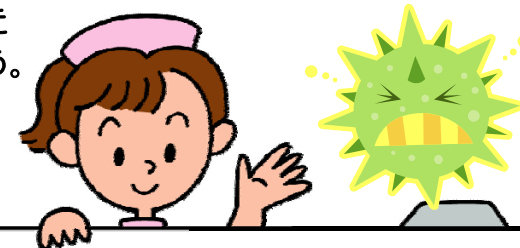
夏かぜの代表疾患である「手足口病」の患者報告数は、6月下旬から増加し始め、7月下旬(第30週)にピークを迎えて、その後減少傾向にありました。しかし、第35週に患者報告数は増加に転じ、再び流行発生警報基準値(定点当たり5人)を越えました。今後、夏休みが終わり多くの集団生活が再開されるため、みんなで予防対策を徹底し、自分が感染しないように、また周りの人に感染させないように心がけましょう。

手足口病ってどんな病気！？

手足口病は、例年報告数の90%前後を5歳以下の乳幼児が占めています。

感染してから約3～5日後に、口の中、手のひら、足底や足背などに水疱性発疹が出ます。約3分の1程度の患者に軽い発熱がみられますが、あまり高くないことが多く、通常は高熱が続くことはありません。

ほとんどの場合、数日間のうちに回復する感染症ですが、まれに髄膜炎などの中枢神経系の合併症を引き起こすことがありますので、高熱・頭痛・嘔吐などの症状を伴っている場合には医療機関を受診しましょう。



気をつけたいこと！！

- ①手洗いの徹底及び便などの排泄物の適切な処理が予防対策の基本です。
- ②口の中に発疹ができると、痛みにより飲食できなくなることがあるので、脱水症に注意しましょう。
- ③症状が回復した後も、1ヶ月程度ウイルスが便中に排泄されることがあるので注意しましょう。